令和6年度 外部評価委員会 評価結果（令和6年5月29日開催）

調査研究課題 事後評価（2課題）

総合評価（5段階評価）を掲載

（5:計画以上の成果、4:計画どおりの成果、3:計画に近い成果、2:わずかな成果、1:成果なし）

調査研究課題	実施年度	担当	評価点
1. 遺伝子検査等を用いた自然毒分析法の検討	R5	化学、微生物	3.5
2. 大分県における気候変動適応の推進について	R5	大気・特定化学物質	3.3

外部評価委員からの主なご意見

1. 遺伝子検査等を用いた自然毒分析法の検討

- ・キノコ専門家でなくてもセンターで検査ができるということか？

（回答）今回検討した6種については可能。

- ・県民への広報啓発としてキャンプ場等にポスター配布をしているが、キノコ採取者への啓発はどのように考えているか？

（回答）センターだより等の活用や県庁関係課と連携を通して広く啓発していきたい。

2. 大分県における気候変動適応の推進について

- ・誰をターゲットにするのか？ 効率的な周知方法について検討すべきだ。

（回答）地球温暖化は将来世代が大きな影響を受けるので、若者世代をターゲットにしている。教育委員会への周知や環境教育アドバイザーとの連携を強化していきたい。

- ・大分市にも地球温暖化対策おおいた市民会議等があり、連携等の可能性があるのではないか。

（回答）今年度、大分市にも脱炭素社会推進室ができ、熱中症対策のクーリングシェルター関係で連携を始めた。周知啓発についても連携していきたい。

調査研究課題 中間評価（1課題）

総合評価（5段階評価）を掲載

（5:独創性・貢献度等が高く是非採択、4:継続した方がよい、3:部分的に検討要、

2:大幅に見直し要、1:中止すべき）

調査研究課題	実施年度	担当	評価点
1. 海域における気候変動と貧酸素水塊(DO)/有機物(COD)/栄養塩に係る物質循環との関係に関する研究	R5~7	水質	4.0

外部評価委員からの主なご意見

1. 海域における気候変動と貧酸素水塊(DO)/有機物(COD)/栄養塩に係る物質循環との関係に関する研究

- ・1998年~2013年の海水温が、一部の地点で下降しているが原因は？

（回答）はっきりとしたことは不明だが、湾口部と湾奥部で共通の動きがある。今後研究していきたい。

- ・ 深さ方向の知見が得られると物質循環がわかるのか？

(回答) 深さの他、DO や COD 等他項目の挙動を含めて物質循環を考えていきたい。

調査研究課題 事前評価 (3 課題)

総合評価 (5 段階評価) を掲載

(5: 独創性・貢献度等が高く是非採択、4: 採択した方がよい、3: 部分的に検討要、2: 大幅に見直し要、1: 採択すべきでない)

調査研究課題	実施年度	担当	評価点
1. 蛍光 X 線分析装置を用いた水中の重金属類 分析法の検討	R6~7	水質	2.8
2. シークエンス等を活用した自然毒関連植物 分析法の検討	R5	化学、 微生物	3.8
3. 大分県内における PM2.5 発生源寄与割合の推定 に関する研究	R5	大気・特定 化学物質	4.0

外部評価委員からの主なご意見

1. 蛍光 X 線分析装置を用いた水中の重金属類分析法の検討

- ・ 現行法 (公定法) と比べて時間短縮はどの程度か？

(回答) 当センターでは公定法で 1~2 日程度かかっていたが、本法は数時間で可能。精確さや定量下限値に弱点があるが、県民への早期周知が必要な案件への活用を想定している。

- ・ 緊急事案においては民間の分析機関の中には数時間で結果が出るところもあることを踏まえると、研究意義を再検討する必要があるのではないか。

(回答) 河川着色事故時は、これまで測定していない重金属も含め測定対象元素を幅広く想定している。試薬を使わずに簡易定量ができる等、蛍光 X 線分析装置のメリットを踏まえて研究方針を再考したい。また、公定法の迅速化についても関係機関から情報収集し、対応を検討したい。(※当日の回答に一部補足。)

2. シークエンス等を活用した自然毒関連植物分析法の検討

- ・ キノコの同定に専門的知識を有さなくてもよいとはどういうことか？

(回答) これまでの同定においては、形態的特徴に関する詳細な知見が必要だったが、本法においては、検査方法を忠実に実施できれば誰でも同定することができる。

- ・ 複数のキノコが混在した検体に関しても検査可能か？

(回答) 検体の状態によっては難しい。キノコが固形物状で持ち込まれた場合は可能。

3. 大分県内における PM2.5 発生源寄与割合の推定に関する研究

- ・ PM2.5 の原因物質として、黄砂によるものとそれ以外のものに分けて解析できるということか？

(回答) 黄砂であれば特定の物質の濃度が高くなる。黄砂以外であれば別の物質の濃度が高くなるため、分けて解析することができる。

- ・ 国立環境研究所との共同研究に参加しているとのことだが、全国各地で同様な研究が行われているのか？

(回答) 成分分析については全国各地で実施されている。共同研究に参加することで、全国のデータを扱う事ができる。